

天使

はじめに

先月から、フルクテンバウム博士の「メシア的バイブル・スタディ」シリーズをテキストにしています。このシリーズは、全部で 191 のテーマを扱っています。旧約と新約、聖書全体のつながりを見ながら、個々のテーマを深く掘り下げる学びです。

191 のテーマの中から、「天使」に関係するものを選びました。

学びの目的は、霊の世界について正確に理解して、私たち信者が神の御手の中に守られていることを確信すること、そして日々の問題に対処できるようになることです。

内容は、大きくは三つ、第一に聖なる天使たち、第二に墮天使の長であるサタン、そして第三、サタンに従って墮落した天使たち（悪霊）です。

今回は、「サタン」についてです。

「サタン」

1. サタンの 4 つの名

- (1) 「サタン」・サタン (ゼカ 3 : 1)、サタナス = 「敵対者」、神の国に対抗する王国のリーダー
- (2) 「悪魔 デビル」・ディアボロス (黙 12 : 9) = 「訴える者」・「人のあらさがしをする者」、神とその信者とを中傷する者 → 黙 12 : 10
- (3) 「ベリアル」・ベリアル (II コリ 6 : 15) = 「価値なき者」、神の目から見たサタンの現状を示す
- (4) 「ベルゼブル」・ベルゼブル (マタ 10 : 25) = 「王宮の主」(ペリシテ人、エクロンの町の偶像の神)、ユダヤ教ラビたちは「ベルゼブブ」=バアル・ズゥブ「蠅の主」と呼んだ。福音書の時代には、これがサタンを指すことばであった。

2. サタンの 10 の称号 (タイトル)

- (1) 「暁の子、明けの明星」(イザ 14 : 12) = 輝いている者、サタンが最初に造られた当初の姿を示す (エゼ 28 章)、サタンは今なお光の天使のように現れることができる (II コリ 11 : 14)
- (2) 「破壊者」、アバドンアポリュオン (黙 9 : 11)、サタンは肉体的にも精神的にもいのちを破壊する者である。ただし、黙 9 : 11 の「底知れぬ所の御使い」とはサタン自身ではなく、上の階級に位置する悪霊を指すとも考えられる。
- (3) 「この世コスモスを支配する者 (君)」(ヨハ 12 : 31、14 : 30、16 : 11)、世コスモスとは、神の国に対抗するサタンの支配体制を指す。サタンはコスモスの君である。他方、メシアは神の国の君である。このタイトルは、サタンの願望、神のようになりたいという願望をサタンが実行していることを示す。
- (4) 「空中の権威を持つ支配者 (君)」(エペ 2 : 2)、空中とは「第一の天と第二の天」を指し、サタンの居場所は現在そこである。そして、そこにはサタンと共に墮落した天使たち (悪霊たち) もいて、サタンは彼らを支配統制している。直訳すると、サタンは「空中の権威の君」、そしてサタンに支配される「権威 (たち)」とは、墮

天使たちである。

- (5) 「この世アイオンの神」(Ⅱコリ 4:4)、「世」と訳されているギリシヤ語はコスモスではなく、アイオン。英語で age 「時代」だが、単なる時間的間隔ではない。
- ① エペソ 2:2 「この世コスモスの流れアイオンに従い」⇒流れアイオンとは、コスモスの中にサタンが仕込む各時代の精神、あるいは価値観。哲学、宗教、イデオロギー、個人主義、経済第一など、それぞれの時代の価値観を反映する「時代精神」。
 - ② ガラ 1:4 の信者たちは「今の悪の世界」(この今の悪のアイオン) から救い出された。＝この時代の精神である哲学的システムから救い出された。
 - ③ サタンはこのコスモスを支配するために真の神を排除した価値観と思考体系を用いる。「この世の神」(このアイオン「時代」の神) というタイトルはそれを表すもの。
- (6) 「悪い者」(マタ 6:13、ヨハ 17:15、Ⅱテサ 3:3、Ⅰヨハ 5:18~19)、ギポネイロス、邪悪な者。サタンの性質が邪悪であること、サタンが諸悪の根源である。
- (7) 「油注がれた守護者ケルブ」(エゼ 28:14)
- ① 他のケルビムは神の御座を下から支えるような位置にいる(イザヤ 37:16)
 - ② 「守護者」と訳されている原語の意味は、「カバーする」。下からではなく、神の御座を横や上から覆うような位置にいることを示す。
- (8) 「悪霊たちの支配者(君)」(マタ 12:24)
- (9) 「ツロの王」(エゼ 28:12)、地上の王国に支配力を及ぼしていることを示す。
- (10) 「バビロンの王」(イザ 14:4、12~15)、同じく地上の諸民族に支配力を及ぼしていることを示す。イザ 14:4b~11、16~21 は、大患難期後半期においてバビロンで王として君臨する反キリストを指している。反キリストの背後にいるのはサタンである。サタン・反キリスト・偽預言者が、神に対抗する模造の三位一体。
3. サタンの6つの居場所と7つの裁き
- (1) サタンの6つの居場所
- ① 神の山(エゼ 28:14) = 神の御座、天 = 第三の天(Ⅱコリ 12:2)
 - ② 神の園エデン、宝石におおわれていた(エゼ 28:13)
 - ③ 空中(エペ 2:2)、複数形の天(エペ 6:12) = 第一の天と第二の天
 - ④ 地上(黙 12:7~9)・・・大患難期の中間で起きる事
 - ⑤ アビス(黙 20:1~3)・・・千年王国の間
 - ⑥ 火の池(黙 20:7~10)・・・10節の「火と硫黄との池に投げ込まれた」という事件についての、詳しい説明は続いて11~15節に記される。サタンも大きな白い御座のさばきを受ける(Ⅰコリ 6:3)。
- (2) サタンへの7つの裁き
- ① 神の山からの追放(天から空中へ)、神の園エデンの喪失(創 1:2)
 - ② 女の子孫の預言(創 3:15)
 - ③ 十字架での裁き(信者について死の権限を失う)
 - ルカ 10:18、ヨハ 12:31、16:11
 - コロ 2:14~15、へブ 2:14~15、Ⅰヨハ 3:8

- ④ 大患難期中間において空中から地上へ
 - ⑤ 千年王国の期間には縛られてアビスに留置される
 - ⑥ 最後の反乱を経て大きな白い御座の裁き
 - ⑦ 火の池での裁き
4. サタンの20の働き【信者との関係において】
- (1) ふるいにかける (ルカ 22 : 31)
 - (2) 妨げる (Iテサ 2 : 18)
 - (3) 欺く→弱みをつかもうとする (IIコリ 2 : 11)
 - (4) 欺く→うっとりさせて騙す (IIコリ 11 : 3)
 - (5) 打つ=身体的な障害を与える (IIコリ 12 : 7)
 - (6) 教会の交わりから除かれた信者の肉体の死に関する権限を持つ (Iコリ 5 : 5)
 - (7) 心を奪う→内側からコントロールしようとする (使徒 5 : 3)
 - ① 「奪う」と訳されている原語はプレーロー、十分にする、(袋に) 詰め込む、(穴を埋めて) 底上げする、といった意味。サタンに心を所有されたというような意味ではない。
 - ② 悪魔に機会を与えないようにしなさい (エペソ 4 : 27)。「機会を与える」と訳されている原語は、「橋頭堡を与える」。橋頭堡とは、軍事用語で敵地の中に設ける拠点。
 - ③ 信者は、サタンにとっては敵地。その中に入り込むにはまず拠点が必要。
 - ④ 拠点を押さえたら、信者の中にどんどん攻め込んでくる。その状態がサタンにプレーローされる状態。内側からコントロールされる状態。
 - ⑤ 別の表現では、「悪魔に捕えられて思うままにされている」(IIテモ 2 : 26)
 - ⑥ 御霊に満たされなさい (エペ 5 : 18)。「満たされる」と訳されている原語もプレーロー。聖霊の満たしとは、聖霊によって内側から導かれる状態をいう。信者の内側がすべて聖霊になることではない。
 - (8) 聖徒に戦いを挑む (エペ 6 : 10~18)
 - (9) 神の御前で信者を訴える (黙 12 : 10)
 - (10) 神が真実であり正直であることについて、疑いを抱かせる (創 3 : 1~5)
 - (11) 信者に対する迫害を扇動する (黙 2 : 10)
 - (12) 次の二つの方法で地域教会の中に潜入する
 - ① 偽の弟子たち=毒麦 (マタ 13 : 38~39)
 - ② 偽教師たち=似ているが別物のイエスを宣べ伝える (IIコリ 11 : 13~15、IIペテ 2 : 1~19)
 - (13) 地域教会を分裂させる (IIコリ 2 : 1~11)
 - (14) 信者を誘惑する。少なくとも6つの領域
 - ① うそをつかせる (使 5 : 3)
 - ② 性的な罪を犯させる (Iコリ 7 : 5、Iテモ 5 : 11~15)
 - ③ 信者個人にとって抗しがたい特定の罪の行為を継続的に行わせようとする (これが脱出できないほどになると「食い尽くされる」Iペテ 5 : 8)
 - ④ この世のことがらに気をそらせ、夢中にさせる (Iヨハ 2 : 15~17、5 : 19)

- ⑤ 霊的なことがらに信者が向かえば、そのことで高慢にさせる（Ⅰテモ 3：6）
 - ⑥ 人間的な知恵や力に依存させる（Ⅰ歴 21：1～8）
 - (15) 信者を食い尽くす（Ⅰペテ 5：8）、信者を特定の罪の中に深く沈みこませて、そこから脱出できないほどにしてしまう
 - (16) 信者を二つの方法で欺き教える
 - ① 似ているようで別物のイエスを教える（Ⅱコリ 11：3～4）
 - ② 光の天使のように現れて教える（Ⅱコリ 11：14）
 - (17) 信者に信仰を失わせる＝信仰の破船（Ⅰテモ 1：19～20）
 幸いなことは、たとえそうなっても、信者は一度受けた救いを失うことはない
 - (18) 悪霊たちを使って信者を倒そうとする（エペソ 6：10～12）。詳細は「悪霊論」
 - (19) 聖書のことばを誤って使わせる（マタ 4：5～6、ルカ 4：9～11）
 わざと文脈をはずして聖句を引用するように仕向ける。すると、信者は聖句の適用を誤る。
 - (20) サタンは信者に対して 4 つの手順を用いる
 - ① 「サタンの策略」（Ⅱコリ 2：11） ノエーマ＝目的を明確にし、そのための方法を考えること⇒サタンは、信者をわなに陥れるために種々の企画をする
 - ② 「悪魔の策略」（エペ 6：11） メソディア＝横切る、ジグザク状に登る⇒サタンは、信者に本当の目的を悟らせないように誘導する。英語訳はトリック
 - ③ 「悪魔のわな」（Ⅰテモ 3：7、Ⅱテモ 2：26） パギス＝計略、戦略、トリック、わな
 - ④ 「サタンによる偽りの不思議（奇蹟）」（Ⅱテサ 2：9）
5. 信者の防衛義務
- (1) 神の武具を見に着ける（エペ 6：10～18、Ⅰヨハ 2：14） 武具＝聖書
 - (2) 信者はサタンに抵抗する力を持っている。それゆえ抵抗しなさいと命じられている（ヤコブ 4：7、Ⅰペテ 5：9、エペ 6：11）。
 - ① 抵抗する、守るというのは、サタンを罵るとか、サタンを縛るとかではない。
 - ② サタンからの誘惑や惑わしに会ったときに、聖書のみことばでそれらを防ぐことである。
 - (3) 目を覚まして警戒していること（Ⅰペテ 5：8）
 - ① サタンがどのように働きかけてくるかを認識しておく。
 - ② サタンに抵抗できるように、みことばによって備えておく。
 - (4) イエスがとりなしてくださっている（ヨハ 17：15、ロマ 8：34、ヘブ 7：25）
 - (5) サタンに対する信者の心得 3 つ
 - ① サタンのことを軽蔑的に扱わない（ユダ 8～9）
 - ② 信者を教育するために神がサタンを用いることがあるという認識を持っておく（ヨブ、パウロ＝Ⅱコリ 12：7～10）
 - ③ サタンは主権者ではない。神の手の中であって、制約されている。（ヨブ 1：12、2：6）